

第17回フォトグラファーズ & フォトビジネスフェア

PHOTONEXT 2027

2027年6月22日[火]-23日[水]
パシフィコ横浜 B ホール

主催: 株式会社プロメディア
主催団体: 日本フォトイメージング協会
一般社団法人日本写真映像用品工業会

[開催のご案内]



photo / kanon

2027 テーマ

共存共栄

みんなで共存、みんなで共栄

みんなの「NEXT」へ！



■「撮った写真をプリントにする」こと、そこに「価値」があると謳う展示会は、写真業界のイベントでない限り、ここまで明確に訴求する主催者は他にいません。そして業界イベントでも、その点を強調して関連する企画展やセミナーを実施しているケースは、さほど多くありません。PHOTONEXT以外の展示会では、撮影機材をクローズアップして、その効果的な使い方をアピールしたり、画像レタッチなどテクニカルな要素が目立ちます。

■そうした展示会イベントがある一方で、PHOTONEXTが掲げる「写真をカタチに残す価値」というコンセプトが際立ちます。私たち人間は「何のために写真を撮るのか」、その答えは「見返すため」ではないでしょうか。見返すためには「プリント」にして残す必要があります。

■こうした点を、もっと若い人たちにも伝えたいです。プロとして活動しようと考えている人たちのみならず、趣味レベルでも「プリントにして楽しむ」という意識を高めるきっかけは、リアルイベントにこそ優位性があります。実際に出力されたものを見て、触って、体感できる場であるからです。

■昔、写真業界にはラボシステムショーという展示会がありました。大型現像所で稼働するようなプリント処理機器をはじめ、会場の至るところで出力デモンストレーションが繰り広げられていました。かなりマニアックな展示会でしたが、業界ディーラーにとってはプリントビジネスに関する唯一無二の商談の場でもありました。

■しかし今の時代、ただ機材を置いて稼働させるだけでは意味をなさなくなってきました。フォトビジネス従事者の多くが求めるのは「ソ



リューション提案」だからです。機材がどれだけ高性能でも、それが「何のため」に活きるのか、それを体得する必要があります。PHOTONEXTで人が集まるブースは、具現化された商品やサービスを提案し、担当者と情報交換できる場が確保されている傾向が見られます。昨今では、さまざまなセミナーや実演を通じて、よりわかりやすく訴求しているブースが増えています。

AIとプロクオリティを共存

■一昨年くらいから、PHOTONEXTでも徐々に注目され始めた「AI」。今回は、さらに台頭してきた感があります。来場者の多くが「いつにも増してAIに関する提案が多く見られた」「人手不足問題のなかで業務効率化が浮き彫りに」などといった感想を漏らしていました。

■2018年頃からママフォトグラファーの来場者が増え始めましたが、その背景には出張撮影マッチングサイトの増加とともに、育児をしながら、あるいは育児を終えた女性が、フォトグラファーとして活動し始めるようになったことが挙げられます。

■最初は副業感覚だったのが、女性を対象としたフォトグラファー養成講座が増えた影響もあり、本格的にプロとして活躍される人が増加。しかし、子育てや家事をしながら仕事をされる女性にとって、とくに撮影写真の整理やセレクト、そしてレタッチといった作業は負担になり、睡眠時間を削ってまで没頭している人もいます。そういう女性にとって業務効率化につながるAIは救世主のような存在で、そうした来場者ニーズに応える提案が顕著に見られます。

■しかし、こうした傾向を危惧する来場者もいます。曰く「AIが便利になりすぎて、プロとして写真を提供することへのこだわり、プライドが失われかねない」と。たとえば、撮影した写真のセレクトやレタッチにおいて、AIは写真表現やアルバム編集などフォトグラファーの意図した「想い」までは十分には汲み取ってくれません。作品づくりのみならず、記念写真にも「このように表現したい」という考えが少なからずある限りは、やはりAIに依存するのではなく「共存」していくことが理想と考えます。

■便利に使って、プロフェッショナルなサービスを提供。そのプロフェッショナルな部分、いかに顧客へ「感動的な体験をしてもらうか」ということを追求しているフォトグラファーがAI時代に生き残り、「選ばれるフォトグラファー」になるのではないのでしょうか。

多業種との交流の場へ

■これまでにPHOTONEXTを16回開催してきましたが、来場者比率で1番多いのは「写真館/スタジオ」で今年は4割強を占めました。次いで「フォトグラファー」が約2割に上ります。一時期は「メーカー/商社」が2番目に多かったですが、コロナ禍以降は順位に大きな変動は見られません。

■さて、フォトグラファーといってもさまざまなタイプがいます。大きな違いとして、撮る対象が一般人かそれ以外（著名人、商品など）、言い換えれば営業写真か商業写真か、に二分されます。このうち、PHOTONEXTで多いのは前者です。

■前者のフォトグラファーでも、七五三や成人式をはじめとする記念日や家族の日常など、撮影ジャンルは細分化されます。多様なフォトグラファーが増えてきているなかで、顧客に選ばれるには「差別化」が求められます。そのきっかけを掴むために、価値ある情報を得るためにPHOTONEXTへ来られるフォトグラファーが多くいます。

■今回のPHOTONEXTは「共存共栄～みんなで共存、みんなで共栄」をテーマに掲げて開催することに決めました。写真業界だけでなく、婚礼や呉服、美容、葬儀、飲食、建築など、さまざまな業種が垣根を超えて、みんなで共有しながら新たな価値を生み出すことを目的に、そのテーマに想いを込めました。

■1人はみんなのために、みんなは1人のために。かつて大リーグで活躍した日本人野球選手が、グローブに「One for ALL」という言葉を刻んでいました。チーム競技において、主役は1人ではありません。それぞれの個性が集まり、さらに磨きがかかって結晶体となって輝きが増し、各人の活性化につながるように。PHOTONEXTがその機会創出の場となるように、各業界とコラボした企画を考えてまいります。

■写真館には協同組合があり、全国にも各地域に協会や青年部などがあります。他の業界にも組織や任意団体があるでしょう。しかし非会員には、そうした「横のつながり」がありません。写真業界において、個人で活動しているフォトグラファーの多くは、関連団体が主催するセミナー（会員以外も対象としたイベント）に参加したり、PHOTONEXTをはじめとする展示会にて情報を共有しています。

■前回、PHOTONEXTは合同会社写心舎主催の公募写真展「PHOTO SUMMIT（フォトサミット）」に協力し、都内各地でのイベント開催、そして6月のパシフィコ横浜では、厳選した作品展示を行ないました。自身の作品が選ばれ、その喜びをSNSに投稿する人がたくさんいました。残念ながら作品が選ばれなかった人も「どんな作品が展示されているのか」に興味を持ち、会場に足を運びました。

■PHOTO SUMMITはプロ・アマを問わず、誰でも参加できる公募展です。若い人たちの意欲あふれる作品の応募も多数見られ、結果的に「これからプロとして活動したい」と考える新しい来場者が集まりました。

■次回以降も、これまでにお越しいただいた皆様にとってお楽しみいただける内容を取り入れることはもとより、新たな来場目的につながる施策も打っていきます。来年2月には、横浜以外でのセミナーイベントを実施する予定ですが、単なるPHOTONEXTのサテライト展ではなく、これまで交わることのなかった業種との企画コーナーを作る計画を立てています。

■PHOTONEXT20周年に向けて、第2章となる「共存共栄～みんなで共存、みんなで共栄～」は6月22～23日、パシフィコ横浜で開催いたします。最新情報は公式サイト（<https://www.photonext.jp/>）にて、引き続きご注目ください。

New Project

実践形式のライブシューティングから、次世代に向けての参加型ギャラリーまで「共存共栄」を主とした体験ゾーン



① さながら「ガチンコ」バトル?! フォトグラファー撮影&プレビュー決定戦

ステージ上には共通モデルとバラエティに富んだ撮影機材。選ばれしフォトグラファーが、自由に機材を使って制限時間内にモデル撮影を実践。最後に全員が見せ合い互いに評価。フォトグラファーの力量が一目瞭然？ 決定戦とは銘打つも、ナンバーワンを決めるのではなく「切磋琢磨」を目的とした新企画。詳細はあらためて公開。営業写真から商業分野まで「我こそは!」というフォトグラファー大募集!! (写真はイメージ)



② 現役から次世代の若者まで 公募参加型写真展&ディスカッション

記念写真をはじめ撮影ビジネスに携わる現役フォトグラファーのみならず、今後業界での活動に希望を抱く若者も、同じ条件で参加できる公募展ギャラリーを会場内に設置。さらに、巨匠写真家によるディスカッションを通じて、みんなで考える「PHOTO」のNEXT。互いに刺激あいながら、さらには業界の垣根を超えて写真をカタチ（プリント）にして残す大切さを体感する機会創出へ。(写真は前回のPHOTO SUMMIT展)

《人気イベント継続開催》

◎ 衣装展示即売コーナー

毎年大人気のアウトレットコーナーに併設。拡販の場、掘り出し品をゲットできる場となります。

◎ 特設ギャラリー

業界団体コンテストから PHOTONEXT でしか見られない展示企画まで。斬新なアイデア随時募集中。



《公式 HP もリニューアル》

各社ブースやセミナー企画プログラムを順次アップ。公式 LINE アカウントやInstagramをはじめ SNS での告知や、月刊誌「スタジオ NOW」にも掲載。ブース出展との連動にもつながられます。(写真は前回)



PHOTO NEXT 2027

フォトグラファーズ & フォトビジネスフェア

主催：株式会社プロメディア

主催団体：日本フォトイメージング協会
一般社団法人日本写真映像用品工業会

各プログラムの詳細は、公式ホームページ (www.photonext.jp)
公式 LINE アカウント、Instagram、X (旧 Twitter) 等で情報発信。
会期 1 ヶ月前には「開催案内パンフレット」を 10 万部発行。
全国に向けて配送します！



2027 主要スケジュール

◎第 1 次申し込み締め切り：1 月 29 日 (金)

◎最終申し込み締め切り：2 月 26 日 (金)

◎出展社説明会 / 小間割抽選会：3 月 26 日 (金)

◎搬入日：6 月 21 日 (月)

◎会期：6 月 22 日 (火) ~ 23 日 (水)

※締め切り日、説明会開催日程は変更になる場合があります。

- ・説明会および抽選会はオンライン (Zoom) で実施する予定です。
- ・出展に際しての詳細は「出展に関わる重要事項説明書」をご覧ください。
- ・主催団体会員は各団体からの案内をご確認ください。

最新情報はフォトネクスト通信誌 「NEXT INFO」と公式 LINE で！

「NEXT INFO」は、PHOTONEXT 開催に向けてのビジョン、セミナーをはじめとするイベントプログラムの詳細、出展社イチオシ情報など、さまざまな内容をお届け。最新号は公式 LINE、Instagram、X、フェイスブックにてお知らせいたします。バックナンバーは、公式ホームページよりダウンロードいただけます。公式 LINE アカウントは、QR コードより是非お友達登録してください。



主催者事務局
株式会社プロメディア

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 16-1 第 11 大協ビル 2F
TEL 03-6302-0801 FAX 03-6302-0802 info@photonext.jp